

## 5. 平成 26 年度男女共同参画推進センターの取組

### 男女共同参画推進センターについて

---

#### 1) 男女共同参画推進センター概要

平成 26 年 4 月、「男女共同参画推進のための行動指針」に基づき、これまでの女性研究者育成支援推進室を発展的改組し、本学全体の男女共同参画活動を円滑に推進することを目的として「男女共同参画推進センター」を設置した。

男女共同参画推進センターでは、「行動指針」に基づき、男女共同参画委員会を支援するとともに 1) 両立支援・環境整備、2) 女性リーダー育成、3) 次世代育成、4) 顕彰制度、5) 地域連携、6) 国際化対応、7) 支援推進体制、の 7 プログラムを実施する。

平成 27 年 1 月、男女共同参画推進センターの専任教員である助手が退職した。2 月、後任教員として助教を採用し、センターにおける調査研究や各種支援事業等の実施を強化する体制を作った。

また、センターの活動について広く知っていただくため、ニュースレターを作成し、平成 26 年度は 3 回配布した。さらにセンターのリーフレットを日本語版、英語版で作成し、学内外に周知する体制を整えている。

平成 26 年 7 月、平成 27 年 3 月には環太平洋大学協会 (APRU) の男女共同参画 Workshop にセンター専任教員が参加し、国際的な場にも活動を広げている。

#### 2) 男女共同参画推進センター愛称・ロゴマーク

男女共同参画推進センター設置に伴い、当センターに愛着を持って頂き、男女共同参画へのより深い理解を促すため、センターについて分かりやすく表現した愛称とロゴマークの 2 点を公募した。全国各地から多数の応募があり、厳正なる審査の結果、愛称は静岡県在住の島田宏哉氏、ロゴマークは群馬県在住の小池友基氏の作品に決まった。

< 愛称 > 「TUMUG (つむぐ)」

「TUMUG (つむぐ)」とは

Tohoku University (東北大学)

Movement (運動、活動)

United (団結、協力)

Gender (ジェンダー、男女)

からなる頭字語 (アクリニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指している。

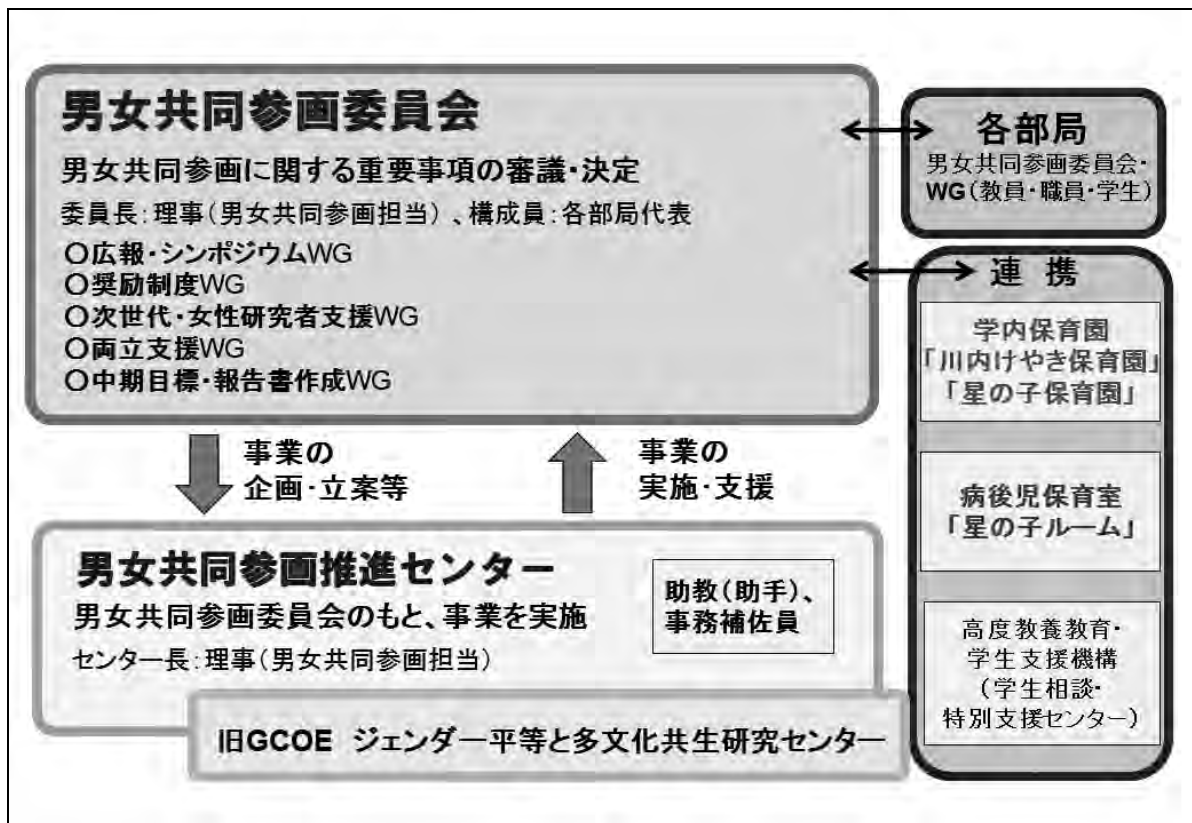
< ロゴマーク >



杜の都仙台を象徴するケヤキの木をモチーフに、人々が手を取り、支え合う様子をイメージしている。また、葉の形は四葉のクローバーにも見え、幸せな未来も想像される。

東北大学男女共同参画推進センターは、年齢・性別等を問わず、誰もが夢や希望を持って、あらゆる分野で活躍できる社会を目指して、男女共同参画の推進に取り組んでいく。

3) 男女共同参画推進センター組織図



## 平成 26 年度活動実績一覧

日付	事項	区分
4月1日	男女共同参画推進センター設置	支援推進体制
4月11日	平成26年度サイエンス・エンジェル第一次応募者採択	次世代支援
4月28日	第一回研究スキルアップ経費応募者採択	女性リーダー育成
5月2日	第1回沢柳フェローとのランチミーティング	女性リーダー育成
5月8日	病後児保育室「星の子ルーム」見学	両立支援・環境整備
5月27日	平成26年度サイエンス・エンジェル第二次応募者採択	次世代支援
5月27日	第二回研究スキルアップ経費応募者採択	女性リーダー育成
6月7日	H26年度サイエンス・エンジェルオリエンテーション	次世代支援
6月16日	仙台Iゾンタクラブ 東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業募集	次世代支援
6月20日	H26女性加速事後評価成果報告書提出	支援推進体制
6月26日	出張セミナー 秋田県立秋田南高等学校	次世代支援
6月30日	仙台Iゾンタクラブ 東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業採択者決定	次世代支援
7月8日	男女共同参画推進センター、愛称・ロゴマーク募集	支援推進体制
7月20日	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2014	次世代支援
7月28日	日本が誇るマテリアルの世界「材料フェスタ in 仙台」	次世代支援
7月30日 31日	オープンキャンパス for 女子高校生2014	SA活動／女性リーダー育成
8月1日	男女共同参画推進センター(TUMUG)ニュースレター0号発刊	支援推進体制
8月9日 10日	国立科学博物館「サイエンススクエア2014」	次世代支援
8月21日	「楽しい理科のはなし～不思議の箱をあけよう～」	次世代支援
9月3日	「外部資料獲得セミナー」／第2回沢柳フェローとのランチミーティング	女性リーダー育成
9月5日	「女性研究者養成システム改革加速」事後評価のヒアリング「事前確認事項」提出	支援推進体制
9月6日	出張セミナー 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校	次世代支援
9月11日	出張セミナー 山形県村山市立楯岡中学校	次世代支援
9月22日	第1回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(通称:澤柳記念賞)受賞課題決定	顕彰制度
10月7日	H26女性加速事後評価ヒアリング	支援推進体制
10月7日	第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム	シンポジウム
10月16日	出張セミナー 宮城県宮城第一高等学校	次世代支援

10月18日	出張セミナー 山形県立山形西高等学校	次世代支援
10月29日	高度教養教育・学生支援機構主催「教育関係共同利用拠点提供プログラム」開講の案内	女性リーダー育成
11月9日 10日	サイエンスアゴラ 2014	次世代支援
11月14日	国際高等研究教育機構・国際高等研究教育院主催「融合領域研究合同講義」開講の案内	女性リーダー育成
11月15日	出張セミナー 山形県立山形東高等学校	次世代支援
11月26日	女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウムへの参加	シンポジウム
11月29日	平成26年度第11回東北大学男女共同参画シンポジウム「未来の男女共同参画社会への新たな発信～女子学生入学101年目の節目を迎えた東北大学から」	シンポジウム
11月29日	研究スキルアップ経費利用者によるシンポジウムでのポスター発表	女性リーダー育成
11月29日	男女共同参画推進センター愛称・ロゴマーク決定	支援推進体制
12月1日	センターホームページ開設	支援推進体制
12月16日	女性研究者のためのメディア対応セミナー／第3回沢柳フェローとのランチミーティング	女性リーダー育成
12月23日	男女共同参画推進センター(TUMUG)ニュースレター1号発行	支援推進体制
1月	新規教員情報やML用の情報収集	支援推進体制
1月22日	出張セミナー 宮城県宮城第一高等学校	次世代支援
1月23日	女子学生入学百周年記念報告書発刊	支援推進体制
2月6日	男女共同参画推進センター(TUMUG)ニュースレター2号発行	支援推進体制
2月16日	出張セミナー 青森県立三本木高等学校	次世代支援
3月4日	出張セミナー 仙台白百合学園中学・高等学校	次世代支援
3月10日	男女共同参画推進センターリーフレット発行	支援推進体制
3月14日	SA活動報告会	次世代支援
3月17日	出張セミナー 仙台市立仙台高等学校	次世代支援
3月末予定	男女共同参画推進センターリーフレット(英語版)発行	支援推進体制
3月末予定	男女共同参画推進センター看板設置	支援推進体制

学外での活動（講演・調査・評価委員）

5月31日	国立情報学研究所「高校生のためのキャリアプランニング」基調講演	大隅 典子
8月19日	平成26年度サイエンス・リーダーズ・キャンプ	田中 真美
8月30日	小児内分泌女性医師を応援する会	大隅 典子
11月2日	日本女医会第8回キャリアシンポジウム「東北大学サイエンス・エンジェル活動紹介」	大隅 典子

12月12日	日本工学アカデミー北海道・東北支部講演会	田中 真美
12月25日	「バッファリングによる女性研究者養成の加速」外部評価委員会(熊本大学)	田中 真美
1月13日	「いわての復興に貢献する女性研究者支援」外部評価委員会(岩手大学)	田中 真美
1月26日	「バッファリングによる女性研究者の加速」総括シンポジウム 総合討論～女性研究者をとりまく現状と未来～(熊本大学)	米永 一郎
2月17日	千葉大学理系女性研究者キャリア支援プログラム総括シンポジウム～5年間の成果と千葉大学における女性研究支援の発展(つねに、より高きものをめざして)～(千葉大学)	田中 真美
3月8日	女性研究者研究活動支援事業キックオフシンポジウム「前へ！明治大学の男女共同参画」「学術における男女共同参画——東北大学の事例をもとに」(明治大学)	大隅 典子
3月23日	「伝統と改革が創る次世代女性研究者育成拠点」外部評価委員会(奈良女子大学)	田中 真美

#### 学内での活動 (講演・調査)

6月19日	平成26農学部・農学研究科教職員研修「東北大学男女共同参画の取り組みについて」	田中 真美
10月16日	大学院生が将来を切り開くために「次世代育成プログラム」	橋爪 圭
1月13日	女子大学院生ネットワーク形成と次世代支援 ～東北大学サイエンス・エンジェル活動の紹介	橋爪 圭

#### 男女共同参画推進センターへの来訪

10月3日	フランス・デ＝スーザ英国上院議長センター来訪
11月7日	駐日ノルウェー王国リーメスタ大使センター来訪
12月10日	ノースキャロライナ大学教授の前田信代先生(1977年東北大学 理学博士取得)、Oliver Smithies 先生(2007年ノーベル生理学医学賞受賞)ご夫妻来訪

#### 取材/報道

6月21日	河北新報16面「男女共同参画推進『沢柳記念賞』東北大が創設」	新聞掲載
7月14日	読売新聞「学問の男女共同参画賞を創設」	新聞掲載
7月31日	オープンキャンパス for 女子高校生 2014 についてニコニコ動画取材	報道
8月9日	河北新報17面「愛称・ロゴマーク募集」	新聞掲載
9月7日	読売新聞18面「『学びたい』を応援/読売教育ネットワーク10月創設」	新聞掲載
11月11日	TBS 別冊アサ秘ジャーナル「東北大学紹介」	報道
11月23日	河北新報「共同参画あり方探る 東北大で29日シンポジウム」	新聞掲載

### 男女共同参画推進センターの活動について

#### (1) 第1回沢柳フェローとのランチミーティング

##### ○ 日時・場所

2014年5月20日(火) 12:00-13:30

片平北門会館2Fセリシール

##### ○ 活動概要

女性リーダー育成の一環とし、沢柳フェローである大隅典子教授、栗原和枝教授、永次史教授を囲んで女性研究者が集い昼食を取りながらミーティングが行われた。参加者は22名であった。

「男女共同参画推進センター」設立の報告、女性研究者の自己紹介が行われた。若手研究者からは支援への感謝の言葉や相談ごとが寄せられ、経験者からの体験談やアドバイスを参考にしていた。

#### (2) オープンキャンパス for 女子高校生 2014

##### ○ 日時・場所

2014年7月30日(水)・31日(木) 12:00-13:30

理学研究科合同A棟 第3共通講義室(204号室・205号室)

##### ○ 活動概要

本学オープンキャンパスにおいて、男女共同参画推進センター主催イベント「オープンキャンパスfor女子高校生2014」を若手女性研究者とサイエンス・エンジェルの合同で2日間開催した。1日目は、山田香織(薬学D1)による「世界最小のものづくり〜くすりの“種”をめざして〜」・出浦桃子助教による「結晶成長の科学〜多分野の融合〜」というタイトルで講演が行われ、2日目は三浦佳奈(生命D1)による「植物の不思議に魅せられて」・佃悠助教による「使う人から建築を考える」というタイトルで講演が行われた。両日ともその後、SAとの進路相談会、女性研究者によるポスター発表を行った。参加者は1日目約100名、2日目約50名となり大変盛況のもと終了することができた。女子高校生の内訳として、昨年同様、県外からの参加者が8割あり、全国から参加している様子がうかがえた。

#### (3) 外部資金獲得セミナー／第2回沢柳フェローとのランチミーティング

##### ○ 日時・場所

2014年9月3日(水) 12:00-13:30

片平北門会館2Fセリシール

##### ○ 活動概要

女性リーダー育成の一環とし、沢柳フェローである小谷元子教授、田中真美教授、杉本亜砂子教授、永次史教授を囲んで女性研究者が集いランチミーティングが行われた。参加者は17名であった。永次史教授の司会進行のもと女性研究者の方一人ずつ自己紹介が行われた。最初に、小谷元子教授より、書類審査の科研費では異分野融合の研究は採択が難しい。ディスカッションを大事にしたものとして、内閣府特別予算「科学技術イノベーション総合戦略2014」についての紹介があった。その後、参加者より科研費をはじめとする外部資金獲得について質問が挙がり、適宜、沢柳フェローから「申請書のチェックは分野の違う先生にも目を通していただく」、「出願分野の選択方法(基盤または萌芽どちらに出すのが良いか、他にどんな選択肢があるか)」など具体的な助言があった。会終了後も個人的にアドバイスを求める姿もあり、若手の女性研究者の方々は大変参考になっていたようである。

(4) 高度教養教育・学生支援機構主催「教育関係共同利用拠点プログラム」開講の案内

○ 日時・場所

2014年4月～2015年3月

川内キャンパス マルチメディア教育研究棟ほか

○ 活動概要

女性リーダー育成プログラムの一環で、大学教育支援センター主催「教育関係共同利用拠点提供プログラム(PDプログラム)」の開講を受け、本プログラムの主旨に一致するものとして、女性研究者への案内を行った。

(5) 国際高等研究教育機構国際高等研究教育院主催「融合領域研究合同講義」開講の案内

○ 日時・場所

2014年10月8日(水)～2015年1月28日(水)

青葉山キャンパス 学際科学国際高等研究センター 大セミナー室

○ 活動概要

女性リーダー育成プログラムの一環で、国際高等研究教育機構主催「融合領域研究合同講義」の開講を受け、本プログラムの主旨に一致するものとして、女性研究者への案内を行った。

(6) 女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム「女性研究者支援とダイバシティ・マネジメント」(参加)

○ 日時・場所

2014年11月26日(水) 13:15-17:10(9:30-12:00分科会)

一橋講堂(東京)

○ 活動概要

文部科学省科学技術人材育成費補助事業の採択大学等83機関が集まり、合同公開シンポジウムが行われた。午前は、テーマ別(A両立支援、B意識改革、Cポジティブ・アクション、D研究力向上・リーダーシップ育成、E次世代育成、F連携・ネットワーク構築)の6グループに分かれ、機関の担当者によるディスカッションが行われた。田中真美教授は、D研究力向上・リーダーシップ育成の座長をつとめた。午後は、文部科学省より来年度の事業概要説明があり、続いて、橋本考之氏(日本IBM株式会社社会長)による基調講演、前田芳實氏(鹿児島大学学長)による特別講演があった。講演後には分科会の報告が各座長より行われた。

(7) 女性研究者のためのメディア対応セミナー／第3回沢柳フェローとのランチミーティング

○ 日時・場所

2014年12月16日(火) 11:00-13:00

片平北門会館2Fセリシール

○ 活動概要

女性リーダー育成の一環として、「女性研究者のためのメディア対応セミナー」が行われた。初めに、当センター助手橋爪圭より、挨拶と会の趣旨説明があった。講師である小林由夏氏(株式会社博報堂、PR戦略局 PRディレクター／広報コンサルタント)より、主にテレビ取材の際の具体的なノウハウをお話いただいた。参加者からは「概要から小さなポイントまでの説明でとても参考になりました」、「わかりやすく「使える」テクニックを本当にすっきりと話されていて、とても面白かったです」などの感想をいただいた。参加者は来場者26名及びセンター4名の合計30名であった。最後に大隅典子教授より閉会の挨拶が行われた。セミナー後、講師と沢柳フェローである、大隅典子教授、杉本亜砂子教授、吉沢豊子教授を囲んで女性研究者が集

い軽食を取りながら茶話会が行われた。メディア対応や写真の有効利用について大隅典子教授より助言があった。参加者はセンター員含め14名であった。

(8) 男女共同参画推進センター(TUMUG)ニューズレター発刊

○ 日時・場所

2014年8月・12月・2015年2月

○ 活動概要

当センターで、実施しているさまざまな取組や支援制度の情報などを知らせるため、ニューズレターを年に数回発刊し、教職員に配布することとなった。0号ではセンターの愛称・ロゴマークの募集をした。1号ではセンター長、副センター長より挨拶文、シンポジウムの報告などを掲載した。2号では支援制度の募集、制度利用者の声を掲載した。

### サイエンス・エンジェルによる活動について

(1) オリエンテーション

○ 日時・場所

2014年6月7日(土)13:00-16:00

エクステンション教育研究棟1階 部局長会議室

○ 活動概要

第一部

SA 自己紹介、スタッフの紹介、平成25年度活動紹介(オープンキャンパス、出張セミナー、体験型科学イベントへの参加)、SA 活動に関する注意事項、勤務に関する事務手続きの説明。

第二部

千田はるか氏(復興庁宮城復興局総括班主査・SAOG)講演、SA 交流会(SA 輝友会)

○ 参加者

米永一郎(金属材料研究所教授)、倉田祥一郎(薬学研究科教授)

参加人数はSA56名(うち3名ボランティア)、関係者8名他、合計64名であった。

(2) 「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2014」

○ 日時・場所

2014年7月20日(日)9:00-16:00

カタールフレンド基金ホール

○ 活動概要

東北大学工学系女性研究者育成支援推進室(ALicE)と共催で、NPO 法人 natural science 主催による「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2014」に出展した。企画名は「サイエンデイ for ガールズ ～ちくちく縫って LED が光るかわいい小物づくり～」とし、導電性(電気を通す素材)の糸をちくちく縫うことでLED がぴかぴか光るように配線し、布やいろいろなデコレーション素材を使って、小物を作る工作を行った。形式は事前申込制による、講座制(各回約40名、2回実施)とした。受講者数は80名、保護者・見学の方も含めると120名以上であった。

○ 参加者

SA:小池咲綾(医学系D1)、井上麻衣(医学系M2)、高橋遙茄(医学系M2)、森田亜由美(医学系M2)、藍川志津(薬学D1)、大槻紗恵(薬学M2)、倉田未紗稀(薬学M2)、駒場加奈枝(薬学M2)、石川玲美(工学M1)、滝沢翠里(工学M1)、多田明日翔(農学M1)、三浦佳奈(生命D1)、滝



浦舞(生命M2)、佐藤舞子(医工学M1)、五十嵐千裕(理学M1)、古樫加奈子(理学M1)、住岡沙羅(工学M2)、鈴木優里(農学M2)、福井友里子(生命M1)  
瀬戸文美(ALicE)

(3) 日本が誇るマテリアルの世界「材料フェスタ in 仙台」

○ 日時・場所

2014年7月29日(火)10:00-14:00

仙台国際センター

○ 活動概要

産業技術総合研究所、東北大学、物質・材料研究機構主催による、日本が誇るマテリアルの世界「材料フェスタ in 仙台」に出展した。企画名は「科学で HAPPY な未来へ」とし、高校生を対象として「燃料電池自動車の未来」、「情報ネットワークの未来」、「クオリティ・オブ・ライフ の 未来」と題した3件の講演を行った後、「20年後の未来を考えよう…」をテーマとしてグループワークを実施した。グループワーク参加人数は25名で、イベント全体を通じての来場者は、2,640名であった。

○ 参加者

SA:堀亜紀(薬学M2)、龍剣蘭(歯学D2)、岡部恵美子(農学M2)、今野倫子(工学M2)、阿部彰子(生命D2)、佐藤舞子(医工学M1)、長谷川蒔(医工学M1)

(4) オープンキャンパス for 女子高校生 2014

○ 日時・場所

2014年7月30日(水)、31日(木)12:00-13:30

理学研究科合同A棟 第3 共通講義室(204 号室、205 号室)

○ 活動概要

今年で9回目の実施。従来、1日しか実施していなかったが今年度は若手女性研究者と合同で2日にわたって、理系進学を志す女子高校生の進路選択の一助として開催した。両日とも 15 分程度の講演を前半に2つ実施し、後半ではSAとの進路相談会と若手女性研究者によるキャリア・研究紹介を行った。1日目は、山田香織による「世界最小のものづくり〜くすりの“種”をめざして〜」と出浦桃子助教(金属材料研究所)による「結晶成長の科学〜多分野の融合〜」という講演が行われ、2日目は三浦佳奈による「植物の不思議に魅せられて」と佃悠助教(工学研究科)による「使う人から建築を考える」という講演が行われた。

来場者は、女子高校生及び保護者を合わせて、1日目およそ100名、2日目およそ50名であった。2日目はイベント開始時に激しい雷雨があったため、来場者が少なくなった。女子高校生の内訳として、昨年同様、県外からの参加者が8割あり、全国から参加している様子が見えた。

○ 参加者

SA:【コア】久保有美子(医学系D3)、津幡真理(医学系M2)、倉田未紗稀(薬学M2)、駒場加奈枝(薬学M2)、今野倫子(工学M2)、佐藤希(工学M2)、三浦佳奈(生命D1)、滝浦舞(生命M2)、馬場史織(環境M2)、沼賀菜々美(環境M1)、佐藤舞子(医工学M1)

【サポート】小澤友美(理学D1)、小池咲綾(医学系D1)、高橋遥茄(医学系M2)、森田亜由美(医学M2)、藍川志津(薬学D1)、山田香織(薬学D1)、堀亜紀(薬学M2)、末永美樹(工学M2)、石川玲美(工学M1)、滝沢翠里(工学M1)、安西沙織(農学M1)、多田明日翔(農学M1)、阿部彰子(生命D2)、山本明音(生命M2)、森岡真代(理学D1)、五十嵐千裕(理学M1)、古樫加奈子(理学M1)、所悠香(理学M1)、龍剣蘭(歯学D2)、石川桃子(工学M2)、住岡沙羅(工学M2)、板谷奈波(農学M2)、岡部恵美子(農学M2)、鈴木優里(農学M2)、坪野真由美(生命M2)、大

山結香(生命M1)、佐藤恵莉子(生命M1)、中村咲耶(生命M1)、宮林彩智子(生命M1)、朝木美帆(環境M1)、長谷川蒔(医工学M1)、藤林里瑛(医工学M1)、山田あずさ(医工学M1)

【講演】三浦佳奈(生命D1)、山田香織(薬学D1)

【ポスター】佐藤希(工学M2)

【司会】津幡真理(医学M2)、馬場史織(環境M2)、倉田未紗稀(薬学M2)、佐藤希(工学M2)

若手女性研究者:【講演】出浦桃子(金研助教)、佃悠(工学助教)

【ポスター発表】星野由美(農学助教)、李淵(工学助教)、永村直佳(多元研助教)、升谷敦子(環境助教)、井上奈穂(農学助教)、土岐文乃(工学助教)

#### (5) 2014 夏休みサイエンススクエアへの出展

##### ○ 日時・場所

2014年8月9日(土)、10日(日)9:00-18:00

国立科学博物館(東京)

##### ○ 活動概要

独立行政法人国立科学博物館主催による、小学生から一般を対象とした「2014 夏休みサイエンススクエア」(7月29日-8月17日)に出展した。SAらは、9日(土)、10日(日)の2日間出展し、「ぴかぴか光るグリーンカードをつくろうサイエンス・エンジェルと光の冒険」を企画・実施した。また、当日は、関東在住の SAOG9名(浅野晴香氏、八木橋奈央氏、浅野成美氏、加藤彩氏、松田詩穂氏、外石安佑子氏、那花美奈氏、須藤彰子氏、八巻淳子氏)がボランティアとして参加し、サポートした。2日間の来場者は保護者を含め約82名であった。

##### ○ 参加者

SA:今野倫子(工学M2)、鈴木優里(農学M2)、馬場詩織(環境M2)

#### (6) 楽しい理科のはなし 2014～不思議の箱を開けよう～への出展

##### ○ 日時・場所

2014年8月21日(木)9:00-18:00

東京エレクトロンホール宮城 6階(仙台)

##### ○ 活動概要

広報課の依頼により、河北新報社、東京エレクトロン宮城の主催による「楽しい理科のはなし 2013～不思議の箱を開けよう～」へ出展を行った。平成21年より今年で5回目の出展となった。SAは、「サイエンス・エンジェルと学ぼう ～科学のふしぎ～」というタイトルで、4つの体験型の実験教室(「ひんやりサイエンス」、「標本を見てみよう! -ムクゲ、ミジンコ、マウスの赤ちゃん-」、「最先端研究をのぞいてみよう -ヒトとショウジョウバエの共通性を利用した研究-」、「オレンジパワーでスタンプを作ろう!」)を実施した。小学校低学年以下の参加者を中心に、親子連れのイベント全体で約2,000名が来場した。約500名が実験教室に参加した。

##### ○ 参加者

SA:五十嵐千裕(理学M1)、古樫加奈子(理学M1)、高橋遥茄(医学M2)、津幡真理(医学系M2)、大槻紗恵(薬学M2)、倉田未紗稀(薬学M2)、駒場加奈枝(薬学M2)、堀亜紀(薬学M2)、岡部恵美子(農学M2)、鈴木優里(農学M2)、石川玲美(工学M1)、三浦佳奈(生命D1)、山本明音(生命M2)

(7) 第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへのSAの参加

○ 日時・場所

2014年10月4日(土) 10:00～17:45

東京大学駒場キャンパス(東京)

○ 活動概要

男女共同参画学協会連絡会主催、東京大学共催、内閣府男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、日本学術会議、科学技術振興機構後援による、第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「女性研究者・技術者を育む土壌 ～連携・融合による支援をめざして～」に、SA3名が参加した。ポスターセッションにおいて、東北大学の男女共同参画推進への取組の紹介を行った。

○ 参加者

SA:菊地まどか(医学系 M2)、森田亜由美(医学系 M2)、高根侑美(医学系 D4)

(8) サイエンスアゴラ2014への出展

○ 日時・場所

2014年11月8日(土)、11月9日(日)10:00～17:00(両日とも)

日本科学未来館(東京)

○ 活動概要

独立行政法人科学技術振興機構(JST)主催による「サイエンスアゴラ2014」へ出展し、SA活動の紹介、SA輝友会の活動紹介の展示を行い、理系進路選択の経験や自身の研究を通して最先端の科学技術を紹介し、また、女子学生が考える『あったらいいなの科学技術』のアンケート展示を通して、来場者へもアイデアを募ると共に、小学生から大人まで科学に親しむことができるよう、双方向のコミュニケーション活動として、サイエンスをイメージしたモビール工作を実施した。SAOG8名(阿部ちひろ氏、佐藤由佳氏、神山千穂氏、浅野晴香氏、須藤彰子氏、大橋裕美氏、加藤彩氏、松田詩穂氏)にもご協力頂いた。当日は、高校生、高校教員、科学イベント実施者、一般、そして、サイエンス・エンジェルOGらが見学を訪れ、担当SAらが自らの研究紹介、大学紹介、学生生活など資料を活用して説明を行った。ブース来場者は親子連れ含め約100名であった。

○ 参加者

SA:山田香織(薬学 D1)、岡部恵美子(農学 M2)

(9) 第11回東北大学男女共同参画シンポジウムへのSAの参加

○ 日時・場所

2014年11月29日(土) 13:00～17:10

片平さくらホール

○ 活動概要

東北大学・東北大学男女共同参画委員会が主催し、第11回東北大学男女共同参画シンポジウムが開催され、サイエンス・エンジェル(SA)32名(うち2名SAボランティア)が出席し、レポートを提出した。

(10) 出張セミナー

1) 秋田県立秋田南高等学校

○ 日時

2014年6月26日(木)13:00-16:00

○ 活動概要

秋田県立秋田南高等学校より、東北大学志願者のための学部学科ガイダンスの講師として出張セミナーの依頼を受け、高校2・3年生を対象にSAが講義を行った。各々が希望する学部学科を2つ選択し、8学部学科に分かれて講演を聴講する形式で行われた。松本郁美(医学系 M1)は「東北大学「学部学科ガイダンス」-医学部・保健学科-」というタイトルで、自分の現在までの進路選択の経歴を踏まえて講演を行った。参加者は5校時・6校時合わせて、高校生約106名、教員ら11名の合計117名であった。

2) 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

○ 日時

2014年9月5日(金)13:30-17:30

2014年9月6日(土)13:00-15:00

○ 活動概要

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校では、平成 22 年度よりいばらき版サイエンスハイスクール事業モデル校として医学部(医学科)及び難関理工系大学への進学者数増加を推進している。そこで、理工系進路選択のロールモデルとして進路選択の一助として出張セミナーの依頼を受け、本センター助手の橋爪圭と2名のSAが講義を行った。本年度で5回目の依頼となる。2日間にわたって実施し、1日目は助手の橋爪圭による講演「理系女子の魅力」、2日目は三浦佳奈(生命 D1)が「植物の不思議に魅せられて」、住岡沙羅(工学 M2)が「化学と宇宙とモノづくり」というタイトルで、進路選択の過程や研究紹介の講演を行った。1日目は高校生24名、教職員10名の計34名、2日目は高校生24名、教職員6名の計30名が参加した。

3) 村山市立楯岡中学校

○ 日時

2014年9月11日(木)9:30-12:00

○ 活動概要

村山市立楯岡中学校より中学校 3 年生の進路学習の一環として施設見学や授業参観、模擬授業などの依頼を受け、カタールフレンド基金ホール(青葉山キャンパス)にて実施した。各SAの自己紹介の後、東北大学についての紹介と研究紹介(「よりよい「がん医療」とは?」)、科学分野についてのクイズ大会を行った。参加者は中学生84名、教員5名、SA5名を含め94名であった。

4) 宮城県宮城第一高等学校

○ 日時

2014年10月16日(木)13:00-15:00

○ 活動概要

昨年度に引き続き宮城第一高等学校にて主催している「ミヤイチ☆キャンパスⅡ」の講師としての依頼を受け6名のSA(所悠香(理学 M1)、堀亜紀(薬学 M2)、津幡真理(医学 M2)、岡部恵美子(農学 M2)、石井彩子(工学 D1)、藤林里瑛(医工学 M1))が講演した。2名ずつ3班に分かれて同時進行する形式で、研究紹介、大学紹介の講演を行った。参加者は理数科の高校1年生78名であった。

5) 山形県立山形西高等学校

○ 日時

2014年10月18日(土)9:00-14:00

カタールフレンド基金ホール

○ 活動概要

山形県立山形西高等学校は「山形の未来をリードする人材育成事業」を行っている。理系進路選択の一助として、同校より研究室見学、出張セミナー、座談会開催の依頼を受け、SAが研究室案内と講演を行った。午前に3班に分かれ3つの研究室を訪問し、午後は、森岡真代(理学 D1)が「天文女子にいたるまで」というタイトルで、つづいて石川玲美(工学 M1)が「工学がリハビリを変える！？～医工学に魅せられて～」というタイトルで講演した。その後、高校生と座談会を行った。参加者は高校生、教員、SA(小澤友美(理学 D1)、倉田未紗稀(薬学 M2)、駒場加奈枝(薬学 M2)、堀亜紀(薬学 M2)、ナスンムク(農学 D2)、成田佳寿美(農学 M1)、板谷奈波(農学 M2)、金ななせ(農学 M1)、住岡沙羅(工学 M2)、三浦佳奈(生命 D1)、山田あずさ(医工学 M1))ら含めおよそ33名であった。

6) 山形県立山形東高等学校

○ 日時

2014年11月15日(土)13:30-15:30

○ 活動概要

理系志望の高校2年生を主な対象とした多様な理系進路選択紹介としての講師としてSAが研究紹介及びパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、大学生活、卒業後の進路選択などについて紹介を行い、質問シートを活用して、質疑応答を行った。参加者はSA4名(植松未知(農学 M2)、佐藤悠子(医学系 D3)、住岡沙羅(工学 M2)、山本明音(生命 M2))、教員2名を含め、合計50名であった。

7) 宮城県宮城第一高等学校

○ 日時

2015年1月22日(木)13:00-15:00

○ 活動概要

宮城第一高等学校にて主催している「ミヤイチ☆キャンパスⅢ」の講師としての依頼を受け6名のSA(森田亜由美(医学系 M2)、堀亜紀(薬学 M2)、石川玲美(工学 M1)、森岡真代(理学 D1)、鈴木優里(農学 M2)、藤林里瑛(医工学 M1))が講演した。本セミナーは2年次課題研究発表会に向けて、研究の成果を発表する際に必要となるプレゼンテーション技術について学ぶことを目的として実施した。SAが2名ずつ3班に分かれて同時進行する形式で、研究発表を行った。参加者は理数科の高校2年生80名であった。

8) 青森県立三本木高等学校

○ 日時

2015年2月16日(月)15:00-17:30

○ 活動概要

昨年度に引き続き、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校である青森県立三本木高等学校より出張セミナーの依頼を受けSAが高校2年生(理系クラス)を対象に、研究紹介、大学紹介などの講演を行った。5つの部屋にSA(松本郁美(医学系 M1)、山田香織(薬学 M2)、沼賀奈々美(環境

M1)、福井友里子(生命 M1))が1人ずつ入り、高校生が希望する講義を選択し受講した。参加者は高校生、高校の先生方、SA、関係者を含め、合計約100名であった。

9) 仙台白百合学園中学・高等学校

○ 日時

2015年3月4日(水)13:30-15:20

○ 活動概要

昨年に引き続き、仙台白百合学園中学・高等学校で中学3年生及び理系志望の高校2年生を対象にした出張セミナーを行った。三浦加奈(生命科学 D1)は「植物の不思議に魅せられて」というタイトルで、菅井千奈美(医学系 D4)は「まわり道でも大丈夫」というタイトルで、大学での研究の内容や面白み、高校生活の過ごし方について講演した。参加者は中学3年生114名、高校2年生36名、他合計150名であった。

10) 仙台市立仙台高等学校

○ 日時

2015年3月17日(火)8:50-9:50

○ 活動概要

第2学年を対象とした「卒業生体験談&進路ガイダンス～卒業生、大学院生、学部生の話聞いて進路決定に役立てる～」にて理系学習進路希望者を対象に講演した。森岡真代(理学 D1)は「天文女子への道のり」というタイトルで、菊地まどか(医学系 M2)は「進路選択にあたって」というタイトルで、学部・学科を決めたきっかけや高校時代の思い出等について講演した。参加者は理系進路希望者約80名であった。

## 平成26年度男女共同参画・女性研究者支援事業について

女性研究者の育児と仕事の両立及び女性リーダーの育成を目的として、下記 7 つの支援制度を実施した。

### 1 研究支援要員

子供を持つ自然科学系女性研究者が出産、育児等を理由に研究を断念することがないよう、研究と育児を両立させることを目的として、研究支援要員(時間雇用職員)を雇用する人件費の一部補助を行う。(上限 200 万円)

<平成 26 年度採択者>

No	部局	職名	氏名
1	医学系研究科	准教授	金子 美華
2	医学系研究科	助教	柴原 裕紀子
3	薬学研究科	助教	鈴木 登紀子
4	薬学研究科	助教	巻出 久美子
5	工学研究科	助教	ガヴァンスキ 江梨
6	病院	助教	館脇(佐藤) 康子
7	病院	助教	森 菜緒子
8	原子分子材料科学高等研究機構	准教授	林 育菁

### 2 研究支援要員(シェア型)

子供を持つ自然科学系女性研究者が出産、育児等を理由に研究を断念することがないよう、研究と育児を両立させることを目的として、男女共同参画推進センターより事務補佐員を派遣する(採択者同士で事務補佐員 1 名をシェア)。

<平成 26 年度採択者>

No	部局	職名	氏名
1	工学研究科	助教	安孫子 聡子
2	情報科学研究科	講師	坂田 邦子

### 3 ベビーシッター利用料等補助

子供を持つ研究者が出産・育児等を理由に研究を断念することがないよう、研究と育児を両立させることを目的として、ベビーシッターや託児室の利用料等を補助する。(上限 10 万円)

<平成 26 年度採択者>

No	部局	職名	氏名
1	文学研究科	准教授	甲田 直美
2	文学研究科	専門研究員	泉 啓
3	文学研究科	D1	アサノワ・グリザル
4	法学研究科	准教授	森田 果

5	理学研究科	助教	藤野 智子
6	医学系研究科	D3	菅井 千奈美
7	医学系研究科	D3	久保 有美子
8	医学系研究科	D2	佐藤 悠子
9	歯学研究科	D3	滝澤 愛子
10	工学研究科	助教	ガヴァンスキ 江梨
11	工学研究科	助教	安孫子 聡子
12	農学研究科	准教授	米澤 千夏
13	農学研究科	研究支援者	尾間 由佳子
14	農学研究科	助教	阿部(後藤)知子
15	情報科学研究科	准教授	福泉 麗佳
16	生命科学研究科	学振特別研究員	小林 知里
17	生命科学研究科	特別研究員	大野 ゆかり
18	流体科学研究所	准教授	伊賀 由佳
19	流体科学研究所	研究支援者	横山 茉代
20	加齢医学研究所	研究支援者	渡邊 怜子
21	東北大学病院	助手	橋本 純子
22	原子分子材料科学高等研究機構	准教授	林 育菁
23	東北メディカル・メガバンク機構	助教	小林 朋子
24	東北メディカル・メガバンク機構	助教	成相 直樹
25	多元物質科学研究所	准教授	桐島 陽
26	災害科学国際研究所	准教授	有働 恵子
27	工学研究科	助教	菊池 圭子
28	理学研究科	助教	板 由房

#### 4 スタートアップ研究費

世界トップリーダーとなるような広い学問領域を見渡せる女性リーダーの育成を目的として、新規採用の女性研究者へスタートアップ研究費を支援する。(採用1年目:上限100万円、採用2年目:50万円)

<平成26年度採択者>

No	区分	部局	職名	氏名
1	1年目	経済学研究科	准教授	金 熙珍
2	1年目	生命科学研究科	助教	一刀 かおり
3	1年目	病院	助教	坂田 佳子
4	2年目	金属材料研究所	助教	出浦 桃子
5	2年目	工学研究科	助教	土岐 文乃
6	2年目	理学研究科	助教	高柳 栄子



## 5 研究スキルアップ経費

世界トップリーダーとなるような広い学問領域を見渡せる女性リーダーの育成を目的として、研究スキルアップ経費として平成26年5月1日～平成27年3月31日の期間に開催される会議、シンポジウム、研究会等へ参加する女性研究者に、旅費、登録料、論文校閲費等の一部を支給する。年2回。(海外の場合:上限40万円、国内の場合:上限15万円)

### <平成26年度採択者(1回目)>

No	区分	部局	職名	氏名
1	国外	薬学研究科	講師	吉田 浩子
2	国外	工学研究科	助教	王 晶
3	国外	農学研究科	助教	井上 奈穂
4	国外	農学研究科	准教授	米澤 千夏
5	国外	農学研究科	助教	星野 由美
6	国外	流体科学研究所	准教授	伊賀 由佳
7	国外	流体科学研究所	講師	竹島 由里子
8	国外	電気通信研究所	助教	大谷 智子
9	国外	多元物質科学研究所	助教	宇井 美穂子
10	国外	病院	助教	坂田 佳子
11	国外	理学研究科	准教授	Izabela Rzeznicka Irena
12	国内	工学研究科	助教	林 久美子
13	国内	多元物質科学研究所	助教	西本 一恵
14	国内	病院	助教	加藤 裕美子

### <平成26年度採択者(2回目)>

No	区分	部局	職名	氏名
1	国外	歯学研究科	研究助教	福島 梓
2	国外	文学研究科	准教授	芳賀 京子
3	国外	経済学研究科	准教授	井深 陽子
4	国外	情報科学研究科	助教	西 羽美
5	国外	農学研究科	助教	星野 由美
6	国外	加齢医学研究所	助教	田口 恵子
7	国外	東北アジア化研究センター	特任助教	前田 しほ
8	国外	学際科学フロンティア研究所	助教	木嶋 英恵
9	国外	災害科学国際研究所	助教	Carine J. Yi
10	国内	薬学研究科	助教	鈴木 登紀子
11	国内	多元物質科学研究所	助教	永村 直佳
12	国内	医学系研究科	助教	大寺 雅子
13	国内	農学研究科	助教	日出間 志寿
14	国内	農学研究科	助教	井上 奈穂
15	国内	多元物質科学研究所	助教	西本 一恵
16	国内	病院	助教	菊地 紗耶
17	国内	工学研究科	助教	ガヴァンスキ 江梨

## 6 サイエンス・エンジェル

次世代の女性研究者の育成補助、並びに自然科学研究に従事する使命・責任感を深めさせることを目的として、自然科学系部局に在籍する大学院女子学生をサイエンス・エンジェルとして任命し、中高生を対象とした次世代育成活動を行う。

<平成26年度採択者>

No	部局	学年	氏名
1	理学研究科	D1	小澤 友美
2	医学系研究科	D3	久保 有美子
3	医学系研究科	D3	櫻井 美奈子
4	医学系研究科	D1	小池 咲綾
5	医学系研究科	M2	井上 麻衣
6	医学系研究科	M2	菊地 まどか
7	医学系研究科	M2	高橋 遥茄
8	医学系研究科	M2	津幡 真理
9	医学系研究科	M2	森田 亜由美
10	薬学研究科	D1	藍川 志津
11	薬学研究科	D1	川又 綾乃
12	薬学研究科	D1	山田 香織
13	薬学研究科	M2	大槻 紗恵
14	薬学研究科	M2	倉田 未紗稀
15	薬学研究科	M2	駒場 加奈枝
16	薬学研究科	M2	堀 亜紀
17	工学研究科	M2	今野 倫子
18	工学研究科	M2	佐藤 希
19	工学研究科	M2	末永 美樹
20	工学研究科	M1	石川 玲美
21	工学研究科	M1	滝沢 翠里
22	工学研究科	M1	長谷川 美佳
23	農学研究科	D2	慧 慧
24	農学研究科	M2	植松 未知
25	農学研究科	M2	鈴木 はるか
26	農学研究科	M1	安西 沙織
27	農学研究科	M1	多田 明日翔
28	農学研究科	M1	成田 佳寿美
29	生命科学研究科	D2	阿部 彰子
30	生命科学研究科	D1	三浦 佳奈
31	生命科学研究科	M2	後藤 由貴
32	生命科学研究科	M2	鈴木 朋代
33	生命科学研究科	M2	滝浦 舞
34	生命科学研究科	M2	田口 翠
35	生命科学研究科	M2	山本 明音
36	環境科学研究科	M2	馬場 史織
37	環境科学研究科	M1	沼賀 菜々美

38	医工学研究科	M1	佐藤 舞子
39	理学研究科	D1	森岡 真代
40	理学研究科	M2	菅井 祥加
41	理学研究科	M2	千葉 理絵
42	理学研究科	M1	五十嵐 千裕
43	理学研究科	M1	古櫛 加奈子
44	理学研究科	M1	所 悠香
45	理学研究科	M1	渡邊 あゆ美
46	医学系研究科	D4	菅井 千奈美
47	医学系研究科	D3	佐藤 悠子
48	医学系研究科	M1	松本 郁美
49	歯学研究科	D3	柴本 彩
50	歯学研究科	D2	龍 劍蘭
51	歯学研究科	D1	佐藤 愛美加
52	歯学研究科	D1	宮下 牧子
53	工学研究科	M2	石川 桃子
54	工学研究科	M2	住岡 沙羅
55	農学研究科	M2	板谷 奈波
56	農学研究科	M2	岡部 恵美子
57	農学研究科	M2	鈴木 優里
58	農学研究科	M1	金 ななせ
59	生命科学研究科	M2	坪野 真由美
60	生命科学研究科	M1	大山 結香
61	生命科学研究科	M1	佐藤 恵莉子
62	生命科学研究科	M1	中村 咲耶
63	生命科学研究科	M1	福井 友里子
64	生命科学研究科	M1	宮林 彩智子
65	環境科学研究科	M1	朝木 美帆
66	医工学研究科	M1	長谷川 蒔
67	医工学研究科	M1	藤林 里瑛
68	医工学研究科	M1	山田 あずさ
69	工学研究科	D1	石井 彩子
70	理学研究科	M2	平田 萌々子
71	医学系研究科	D4	高根 侑美

## 7 仙台 I ソンタクラブ東北大学女子学生海外渡航支援

海外において開催される国際学会等で研究発表を行う大学院女子学生を対象として、その渡航に係る費用を支援する。(上限 15 万円)

<平成 26 年度採択者>

No	部局	学年	氏名
1	医工学研究科	M1	塩谷 真帆
2	医学系研究科	D3	久保 有美子